

平成27年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム報告書

申 請 者	所属部局・職名	人文学部 ・教授
	氏 名	李 永俊

事 業 名	「地域を担う人材育成と地域活性化のモデルの構築」を題材とした学生海外PBLプログラム
-------	--

事業の概要とその成果

【派遣者(指導教員, 参加学生)】

学生の人数 : 8名、随任教員名 : 李 永俊

【実施期間】

平成 27年 9月 20日～平成 27年 9月 25日

【事業概要とその成果】

本事業は、地域を担う人材育成と地域活性化のための地方大学の役割を模索するために、社会経済環境が類似している韓国の地方大学がどのような取り組み(自治体や企業との協働など)を行っているのかを調査研究し、本学で具体的に実践できる事業を提案・実施することを目的とする。また、本学と大学間協定を締結している慶北大学の学生との共同セミナーを通して、本学学生のグローバルマインドを涵養することも目的としている。

本事業は、地域間人材循環モデルを構築することにある。具体的な課題としては次のようになる。

- ①地域別のマクロ的な現状を把握する。公表データを用いて状況を正確に把握する。
- ②人材育成のための韓国の地方大学の取り組み(自治体や企業との協働、キャリア教育など)や学生の就業意識などを現地でのヒアリング調査で明らかにする。
- ③地域活性化のために、本学で実践できる具体的な事業を提案する。
- ④地域を担う人材育成とそれによる地域活性化のための地方大学の役割について考える。参加団体やそれぞれの役割、総合的なマネジメントの仕組みなどを理解する。

本事業は、PBLプログラムとして、事前調査において弘前市と酷似した環境にある地域へ赴き、現地での調査で先行的な地域間人材循環モデルを学ぶ、現地でのモデルの研究と実践という、PBL学習で不可欠な諸要因を学ぶことができるプログラムとなっている。また、その過程で、基礎科目と専門科目で学んだ知識を実践で応用する能力も学べたと思う。経済学の基礎的知識をPBL学習を通して可視化できるかを本事業の受講者の達成度の評価基準としていたが、今回の事業では100%達成できたと評価できる。

その他に、教育面では、現地の学生との異文化コミュニケーションや地方大学と学生のあるべき姿という共通の課題に対してのグループディスカッションを通して自己表現力、実践的英語力などを養うことが出来た。また、地域貢献面では、地方都市と周辺地域の結び付けを目的とした津軽地域間人材循環モデルの基盤となりえる先行事例からヒントをもらい、高齢者就業における政策的ヒントも得ることが出来た。それに加えて、日韓若者の民間交流のきっかけを得ることが出来たことが大きな成果といえる。